

1.1. 研究開発・実践に関する基本情報

時期/年組(学年毎参加数)		令和3年12月17日/1年9組 39名																
		1a	1b	1c	2a	2b	3a	3b	4a	4b	5a	5b	6a	6b	7a	7b	8a	8b
本年度当初の仮説		◎		○	◎	○					○				○			
本年度の自己評価		4		3	4	3					3				3			
次のねらい(新仮説)		◎		○	◎	○					○				○			
関連 file	方針: 実施要項(生徒用).pdf																	
	内容: 科学倫理配付資料.pdf : 講義のパワーポイント用資料																	
	教材: 科学倫理事後記入.pdf : 講義を受けての自己評価・感想																	

1.2. 研究開発の経緯と本年度当初の課題

本校総合理学科に入学する生徒の中に、医学部を含む医療関係方面を進路に考えている者が多く、興味関心の度合いが高い。だが、その知識には偏りがあり、医師として求められる倫理観については、新聞等で話題になったことは知っているが、医学を志す上で、必要な医療倫理の知識についてはまだまだ不足しているものが多い。今回、現役の医師である大学教授にオンラインではあるが講演を行ってもらい、その後、ZOOMを利用して、生徒と議論をしてもらった。そしてその内容を記録し、授業等でフィードバックした。

1.3. 研究開発実践

方法

科学倫理・生命倫理に関連して、本校卒業生で、兵庫医療大学学長の藤岡宏幸氏に「医師の目から見た科学倫理」というタイトルでオンライン講義をしていただき、講演後、本講教室と大学を結び、講義内容に関する質疑応答をおこなった。また、現代社会の授業の中で倫理分野を扱ったので、その中で科学倫理についても少し触れた。

内容・結果

- (1) 大規模規模災害での治療3T(トリアージ)について: 阪神淡路大震災後にできたコードブルー(医療現場で緊急事態発生の意味)状況下で、医療行為の選別をする行為について、自らの体験を踏まえて述べられた。
- (2) Informed Consent (IC:説明と同意)の重要性について: 現在は治療内容・目的、治療を実施しなかった際の経過などを子ども・認知症の患者も含めて必ず説明することが必要となっている。
- (3) 人を対象とする医学系研究: 侵襲(外傷や被曝等、医療行為に伴う身体への害)に関するデータを学術研究に用いる際には同意書が必要で、患者はオプトアウト(拒否)する権利がある。
- (4) 人生会議と最近の医療: 現在は人生の終末期について、本人の意向に沿った治療にシフトしている。昔は長生きさせる事が治療だったが、近年は患者の生活を豊かにするために治療を行うため、QOL(人生の質)やQOD(死の質)を考え、医師を含む多職種連携チームで最善の方法(治療)を探す医療に変化している。
- (5) 倫理について: ALS嘱託殺人の判例等を通じて安楽死と殺人の線引きについて考え、医師が持たなければならない倫理観について問題提起を行うとともに、古代ギリシアのヒポクラテスの誓いを通じて、安楽死・中絶の否定、患者の利益優先など、現代にも多く残存する医療倫理に関する先哲の知恵から考えさせた。
- (6) 質疑応答: 上記を踏まえ、藤岡先生と議論をおこなった。ALS嘱託殺人事件などの対応に対する考え方や、医学とはどのような学問かという問いに対し、「医師は技術のみならず倫理的な面でも責任が強く、世界の医療倫理とも照らし合わせつつ時代に応じた正解を模索していかなければならない」などの意見があった。

1.4. 「8つの力の育成」に関する自己評価と本年度の取組から見てきた今後の課題

- (1a) 発見:[成果]感想から科学倫理を学ぶ意義に気づきを得た者が半数以上いた。
[課題]得た知識をどのように活用していけばいいか考える機会を設けることが課題である。
- (1c) 発見:[成果]医療の現場でどのような行動が求められるかを気づいたものが多かった。
[課題]そこから発展し、自分に何ができるかを考えさせる議論の時間をとることが今後の課題である。
- (2a) 挑戦:[成果]医学を志す生徒が多く、自分の問題として考え、努力しようとする姿勢が見られた。
[課題]医学を志す生徒に対して、学ぶ場をどれだけ設けることができるかが課題である。
- (2b) 挑戦:[成果]科学に関する探究活動全般として、実験の前の先行研究の充実が肝要であると考えた生徒がみられた。
[課題]この講義で得たものを、サイエンス入門等の他の科目にどうフィードバックさせていけるかが課題である。
- (7a) 質問:[成果]ALS嘱託殺人事件や安楽死の定義について積極的な質問を投げかけていた。
[課題]事前学習で、内容を告知することで、質問内容に事前に考えさせ、議論を高める工夫が課題である。

1.5. 外部人材の活用に関する特記事項

今年度はできなかったが、昨年はZOOMを使用し、対談形式で医師と教員が議論する内容を生徒が視聴する形態をとった。来年度以降、ICT機器を積極的に使用し、科学倫理について考える機会を増やして行きたい。